

我々總評試会は、今午は完成せられてゐない左翼労働組合の産業別整理——全圖的産業別單一組合の建設——を重大なる任務としてゐるものである。

(三) 更に我々總評試会は、労働者階級の解放と奪取すべき社会の建設のためには、半山そのものであることを綱領に掲げ、これを中心任務とするものであることを明かにしてゐる。

(四) かつて我々左翼階級の一部には、労働者階級の解放を期し得るものは、アロレタリアート党以外には無い。組合や大衆政党が、さうした綱領を掲げるとは間違ひだといふやうな議論が行はれたことがある。世にさうした議論は徹底的に誤謬である。

(五) 労働者階級の解放や奪取なき社会の建設は、党や組合や労働者農民の同盟や、その他すべての階級の組織が、全力を盡して統一の上で進めなくてはならず、到底実現し得ないものである。無論、それ以外の組織の任意・役割は異なる、だが、それら一切の組織が、明確に労働者階級の解放を期し半山の唯一の綱領、断じてアロレタリアートの勝利は在り得ない。

(六) この労働者階級解放のための半山は、言ふまでもなく、政治手争である。ブルジョア政権確立に材する徹底的抗争なくして労働者階級の解放を考へることは出来なから、我々總評試会は、労働者階級解放の日まで

治安維持法以下の諸憲法の撤廃、帝國主義對策反対、資本家地主の政府打倒の手争を不断に敢行し続けるものである。

(七) 更にまた我々總評試会は、農民運動、民族解放運動を支持すると同時に、労働者の國際的團結を討つことを綱領に掲げた。

(八) 我國の如く、人口の過半数が農民にまつて構成され、しかも、それらの農民大衆が、現に資本家地主の政權と半山つ、あるとき、我々我々の運動を支持し、それら農民大衆と固く提携することは絶対に必要である。

(九) 更にまた我々は、一切の民族解放運動を支持する。植民地、半殖民地の兄弟の解放運動を支持することをなくして、自國帝國主義ブルジョアととの半山に勝利を導くことは不可能だ。

(十) 我々總評試会は、更に國際アロレタリアートの團結を任山としてゐる。現在では、ブルジョアとアロレタリアートとの手争は、最早一國內のブルジョアとアロレタリアートとの手争でなく、國際的ブルジョアと國際的アロレタリアートとの手争である。我々總評試会は、あらゆる困難を突破して、國際アロレタリアートの團結のために半山つものである。

(十一) 最後に我々總評試会は、社会民主主義的指導の排撃と戦手所アロレタリアートの立場の最中とを綱領に明示した。